

7 月蔵井 (がつぞうい)

所 在:伊那市高遠町荊口

築 造:弘化4年(1847年)

管理者:荊口総代

高遠藩主の内藤頼寧(ないとうよりやす)は藩財政の建て直しのために、各所に井筋を開いて開田し、税の増収を図りましたが、月蔵井筋もその一つです。三義赤坂から取水し、幅二尺、長さ三里余、月蔵山を越え東高遠に達し、沿線のかんがいに当てるとともに、武家の御用水ともなりました。この建設は全て藩直営で行ったもので、荊口赤坂(ばらぐちあかさか)から東高遠の郷方役所までの間に荊口と板山沢に人夫の泊る小屋を建て、奉行は毎日そこから監督に当たっていました。全線を区間毎に責任者を決めて工事を請け負わせたので、短期間で工事が完了しました。これに従事した人夫は、領内各村のほか、三州、美濃からも来ていたといわれています。

記念碑は薬師堂の庭にあり、碑面には当時関係者の名前が刻まれています。



記念碑